

令和4年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団	
施 設 名	京都コンサートホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	14,533	(千円)
	公 演 事 業	8,177 (千円)
	人 材 養 成 事 業	4,221 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,135 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	京都北山マチネ・シリーズ (全4回)	2022/6/28, 8/25, 12/16, 2023/2/16	出演：VOX POETICA、榎本瑠音 (チェロ)・五十嵐薫子 (ピアノ)、入江一雄 (ピアノ)、山本楓 (オーボエ)、羽石道代 (ピアノ)	目標値	1,400
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	1,152
2	KCH 的クラシック音楽の ススメ Vol.3 「東京六人組」	2023/3/1※日程変更	出演：東京六人組 (上野由恵・荒絵理子・金子平・福士マリ子・福川伸陽・三浦友理枝) 演目：ラヴェル：ラ・ヴァルス ほか	目標値	350
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	※289
3	第26回 京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート	2022/9/17	出演：原田慶太楼 (指揮)・亀井聖矢 (ピアノ)・京都市交響楽団、演目：ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番 ほか	目標値	1,800
		京都コンサートホール 大ホール		実績値	1,677
4	神に愛された作曲家 セザール・フランク——フランク生誕200年記念公演——	2022/10/22	出演：E・ル・サーージュ (ピアノ)・弓新・藤江扶紀・横江礼理・上村文乃 (弦楽四重奏)、 演目：フランク：ピアノ五重奏曲 ほか	目標値	390
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	307
5	京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクト Vol.3 「天才が見つけた天才たち——セルゲイ・ディアギレフ生誕150年記念公演——」	2022/11/6	出演：パスカル・ロフェ (指揮)・アレクセイ・ヴォロディン (ピアノ)・京都市交響楽団、演目：R-コルサコフ：「シェヘラザード」ほか	目標値	1,300
		京都コンサートホール 大ホール		実績値	1,030
6	3つの時代を巡る楽器物語 番外編「ラフマニノフが愛したスタインウェイ」	2022/11/23	出演：イリーナ・メジャーエワ (ピアノ) 演目：ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ第2番 ほか	目標値	400
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	478

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第11回 関西の音楽大学 オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサート ホール	2022/9/19	出演：秋山和慶（指揮）、フェスティバル参加 校による管弦楽団、演目：ベートーヴェン： 交響曲第5番「運命」ほか	目標値	入場者数 およそ 1,000名 参加者数 およそ 100名
		京都コンサートホール 大ホール		実績値	入場者数 636名 参加者数 83名
2	京都市ジュニアオーケス トラ ミュージック・サマ ー・コンサート&第18回 京都市ジュニアオーケス トラコンサート	サマー：2022/8/21 第18回：2023/1/29	出演：京都市ジュニアオーケストラ ほか、 演目：チャイコフスキー：「白鳥の湖」組曲、 ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」ほか	目標値	入場者数 およそ 1,300名 参加者数 およそ 120名
		サマー：京都市右京ふ れあい文化会館ホール 第18回：京都コンサ ートホール大ホール		実績値	入場者数 1,701名 参加者数 164名
3	Join us（ジョイ・ナ ス）！～キョウト・ミュ ージック・アウトリーチ ラボ～	2022/5/24, 8/12, 10/27, 2023/2/20	講師：児玉真、柿塚拓真、福井千鶴、梶田美 香、レクチャー内容：クラシック音楽のアウト リーチに関する各専門分野のレクチャー	目標値	参加者 およそ 80 名
		5/24：京都コンサート ホール会議室 8/12, 10/27, 2/20： 京都市北文化会館 創造活動室		実績値	参加者 65名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Join us (ジョイ・ナス)！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～	2023/9/28, 10/18, 12/14, 2023/2/2 2ほか 計 20回	出演：京都コンサートホール第2期登録アーティスト(鎌田邦裕[フルート]・福田彩乃[サクソフォン])ほか	目標値	参加者数 およそ 1,000名
		京都教育大付属京都小学校、京都市立高雄小学校、京都市立洛風中学校、京都市立洛友中学校、同志社小学校、一燈園小学校 ほか		実績値	参加者数 1,267名
2	幼児のためのポジティブオルガン体験講座	2022/6/8, 6/9	出演：久保田真矢(講師)・京都コンサートホール事業企画課スタッフ、演目：オリジナル台本に基づく内容	目標値	参加者数 およそ 120名
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	参加者数 93名
3	音楽でつながる♪リレーコンサート	2023/3/26	出演：レゾナンス(オカリナ七重奏)、小牧高広、猪名川グリーンクラブ。ほか、演目：モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲第4番 ほか	目標値	入場者数 およそ 500名、 参加者数 およそ50 名
		京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ		実績値	入場者数 269名、 参加者数 27名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>京都コンサートホールの社会的役割は「京都の音楽家を支え、京都で学ぶ学生や国内外で活動する若手音楽家を育み、彼らの活動を市民に届ける」ことを通して「京都の文化芸術を継承・創造・発信し続ける“文化芸術の拠点”となる」ことである。この社会的役割を果たすために、次の4つのミッションを設定した。①地元京都の音楽家や国内外で活動する若手音楽家を起用した、当ホールでしか鑑賞できない公演づくり、②あらゆる人々が文化芸術を享受し、交流できる場づくり、③「京都のクラシック音楽のハブ」としての多様な連携・協働、④「京都のクラシック音楽の殿堂」としての存在価値を高める事業づくり、である。</p> <p>2022年度は「公演事業」として6事業、「人材養成事業」として3事業、「普及啓発事業」として3事業を、上記の社会的役割及びミッションに基づき、各ミッションに各事業がバランスよく紐づくよう考慮して次のように組み立てた。</p> <p>「①地元京都の音楽家や国内外で活動する若手音楽家を起用した、当ホールでしか鑑賞できない公演づくり」として、公演事業（事業番号）1, 2, 4、人材養成事業1, 2、普及啓発事業1, 2を実施した。「②あらゆる人々が文化芸術を享受し、交流できる場づくり」として、公演事業1, 2, 3、普及啓発事業1, 2, 3を実施した。「③『京都のクラシック音楽のハブ』としての多様な連携・協働」として、人材養成事業1, 2, 3、普及啓発事業1, 2, 3を実施した。「④『京都のクラシック音楽の殿堂』としての存在価値を高める事業づくり」として、公演事業1～6、人材養成事業1～3、普及啓発事業1～3を実施した。</p> <p>公演事業2については、公演3日前に出演者の新型コロナウイルス感染症の感染が判明し、やむなく延期開催となった。当初、土曜日開催の予定だったが、出演者のスケジュールとホールの空き日が一致せず、延期公演は平日夜の開催となってしまった。そのため、平日夜の来館が難しい観客からのチケットの払い戻しが相次ぎ、目標としていた観客数に達することができなかった。その他の事業については、すべて当初の予定通りに事業を進めることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>&lt;文化的意義&gt;：当ホールは例年、年間ラインナップの記者発表を実施している。2022年度については、2022年1月17日に実施し、オンラインを含む12社の参加があった。その後、京都新聞や毎日新聞をはじめ7媒体で年間ラインナップに関する記事が掲載され、大きな注目を集めた。また、公演事業6については、当ホールの主催事業としては初めてテレビ収録が入り、NHK-BS「クラシック倶楽部」で放映され、地上波でも再放送された。これらのことにより、京都のクラシック音楽界を牽引する活動を重ねることができたと言えるだろう。</p> <p>&lt;社会的意義&gt;：当ホールのプロデューサーがweb批評誌「Mercure des Arts」に当ホールの主催事業に関する記事を寄稿したり、大学や集会等で当ホールの社会的役割に関する講義を行ったり、インターンシップ生を受けれたりするなど、社会に向けて、当ホールの存在意義を広く周知する活動を継続的に行った。</p> <p>&lt;経済的意義&gt;：当ホールでは、チケット代の幅をもたせたり価格帯を抑えたりすることにより、できる限り多くの聴衆が来場しやすい環境づくりに心がけている。さらに、ホールの外に出て生演奏を届けるアウトリーチ活動も積極的に行い、あらゆる人々が平等に文化芸術を享受できる機会を創出している。また、地域のレストランや店舗等と積極的に関わり協力関係を築くことにより、ホール周辺の賑わいづくりにも励んでいる。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### <公演事業>

目標1：鑑賞者の満足度（「非常に良かった」・「良かった」）について80%以上を獲得できるよう目指す。

⇒聴衆アンケートを実施し、達成した（6事業の平均 99.1%）。

目標2：すべての公演事業において、65%以上の入場者数率となるよう目指す。

⇒達成した（6事業の平均 69.1%）。

目標3：学生あるいは30歳以下の入場料金を定めている事業について、各事業20枚以上の販売枚数を目指す。

⇒達成しなかった（事業番号2：24枚、事業番号4：15枚、事業番号6：29枚）。

目標4：来館した理由として「京都コンサートホールの自主事業のプログラムに関心があるから」という聴衆が全体の15%となるよう目指す。⇒達成した（6事業の平均 44.2%）。

#### <人材養成事業>

目標1：事業参加者の事業参加満足度（「満足」・「やや満足」）が80%以上となるように目指す。

⇒達成した（事業番号1：94.1%、事業番号2：96.4%、事業番号3：90%）。

目標2：事業参加者の80%以上が「次年度も継続して事業に参画したい」と感じられるような事業づくりを目指す。⇒達成した（事業番号1：86.2%、事業番号2：83.8%）。

目標3：聴衆の満足度（「満足」・「やや満足」）が75%以上となるように目指す。

⇒達成した。（事業番号1：100%、事業番号2：100%）

目標4：事業参加者の50%以上が「地域の文化芸術の拠点」として、また「地域の文化芸術のリーダー」としての意識が高まるような事業づくりを目指す。⇒事業参加者アンケート内容を精査の結果、各々の意識が高まったと思われる感想が半数以上寄せられたため、達成したと言える。

#### <普及啓発事業>

目標1：聴衆あるいはアウトリーチや講座を受講した人々の満足度（「満足」・「やや満足」）が80%以上となるように目指す。⇒達成した。（事業番号1：100%、事業番号2：100%、事業番号3：82%）

目標2：聴衆あるいはアウトリーチや講座を受講した人々の85%以上が「次回も参加したい」と思う事業づくりを目指す。⇒達成した。（事業番号1：100%、事業番号2：90%）

目標3：アウトリーチや講座を受講した人々の80%以上が「将来的にホールを来館し、他事業の公演を鑑賞したい」と思う事業づくりを目指す。

⇒達成した。（事業番号1：100%、事業番号2：100%、事業番号3：88%）

目標4：市民参加型の事業において、90%以上の参加者が「ホールの対応がよかった」と回答する事業づくりを目指す。⇒達成した。（事業番号3：100%）

#### <総評>

公演・人材養成・普及啓発すべての事業において、当初掲げていた目標をほぼ達成することができたといえる。公演事業の「目標3」について達成することができなかった事実は、我が国のクラシック音楽界の現状を端的に表していると言ってよいだろう。京都のみならず、全国的に聴衆の高齢化が進んでいるが、若者がクラシック音楽に興味を持つためにはどのような取り組みをすれば良いか、当ホールにとどまらず他館とも協議を重ねるべきであるとする。聴衆の高齢化は様々な要因が絡んでいるが、クラシック音楽の厚いファン層である高齢者層をこれまで以上に大事にしつつ、若者の心に響く公演をどんどん企画していきたい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業>前年度～前々年度に企画立案を行い、公演日の7ヶ月前にチラシ制作、4～5ヶ月前にチケット発売を行った。広報活動は、前年度の2月（記者発表時）から開始し、チケット発売以降、本格的に情報を発信していった。事業番号2を除き、すべての事業で当初の計画どおりに進めることができた。

事業番号2については、公演の3日前に出演者の1名が新型コロナウイルス感染症に感染したことが判明し、やむなく公演中止とした。その後、およそ半月後に延期公演の日程を発表し、延期公演に来場できないチケット購入者の返金作業を行いながら、通常公演と同様に広報活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初の計画通りには進まなかったが、延期公演に向けて速やかな対応を行うことができた。

<人材養成事業>前年度に企画立案を行い、公演日の5ヶ月前からチラシ制作を、およそ3ヶ月前にチケット発売を行った。同時に、事業番号1及び2については、コンサートに向けて練習を行った。チケット発売前に綿密な広報計画を立て、そのスケジュール通りに運営することができた。

<普及啓発事業>事業番号1については、前年度よりアウトリーチの受け入先のリサーチやアーティストのオーディションを行い、2022年の秋よりアウトリーチを実施できるよう、スケジューリングを行った。事業番号2については、講師役のオルガニストや京都市教育委員会等と前年度より打ち合わせを行い、公演日に向けて準備を重ねた。事業番号3については、当初の予定通り、公演日の半年前から出演者の公募を行い、アマチュア音楽家のフォローを長期的に行った。

<総評>いずれの事業においても、「計画性」を重視し、無駄のない効率的な事業運営を常に心がけてきた。無理なく事業を運営してきたことから、事業期間が適切かつ当初の計画通りに進めることができたと言える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<公演事業(6事業)>支出について、決算では29,054,833円であり、当初予算(31,421,000円)よりも2,366,167円経費削減して事業運営した。また収入について(自己負担金除く)、決算では17,635,990円であり、当初予算(19,536,000円)よりも1,900,010円マイナスとなった。これは、チケットの売上が目論見よりも下がったことに拠る。しかしながら支出を抑えて事業運営をしたため、自己負担金を当初予算よりも大幅に増やすことなく事業運営をすることができた。

<人材養成事業(3事業)>支出について、決算では9,359,927円であり、当初予算(10,510,000円)よりも1,150,073円経費削減して事業運営した。また収入について(自己負担金除く)、決算では3,487,050円であり、当初予算(2,683,000円)よりも804,050円プラスとなった。事業費を削減しつつも、チケット販売等で収入増となった。

<普及啓発事業(3事業)>支出について、決算では4,809,183円であり、当初予算(5,760,000円)よりも950,817円経費削減して事業運営した。また収入について(自己負担金除く)、決算では1,041,000円であり、当初予算(1,495,000円)よりも454,000円マイナスとなった。これは、当初収入を予定していた補助金・助成金が金額通りに獲得できなかったためである。しかしながら、事業費を大幅に削減できたため、自己負担金を減らすことができた。

<総評>いずれの事業においても、収支全体を見ると大幅な変更はなく、ほぼ予定通り進めることができたと言える。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

前年度の2022年1月17日に、館長の広上淳一（指揮者）と、企画制作の責任者であるホールプロデューサー（事業企画課長・高野裕子）が主催事業ラインアップ（助成対象事業をすべて含む）に関する記者発表会を行い、メディアに対して事業説明を行った。記者発表終了後、7社（京都新聞：2/2朝刊、毎日新聞：2/9夕刊、ぶらあぼ：2/2WEB記事、音楽の友：3月号（2/18）、モーストリー・クラシック4月号（2/20）、サラサーテ：4月号（3/1）、関西音楽新聞：3月号（3/1））で当ホールの2022年度主催事業ラインアップが取り上げられ、実施事業の内容や事業の目的について広く周知することができた。これらの掲載により、京都のみならず関西、ひいては日本全国のクラシック音楽ファンに助成対象事業について周知でき、集客率アップにつながったと考える。

助成事業単体では、公演事業3が2誌（音楽の友7月号・ぶらあぼ9月号）で取り上げられたほか、公演事業4が1誌（日本経済新聞6月17日夕刊）、公演事業6が2誌（京都新聞11月11日朝刊、日経新聞11月12日オンライン）で事業内容や出演者インタビューの内容が取り上げられた。さらに、公演事業6については、NHK放送局による収録が入り、公演の様子がNHK-BS「クラシック倶楽部」（2023年2月23日放送）で放送された。放送の際の大きな反響が全国から寄せられたことで、その後、数回にわたり（地上波を含む）再放送された。

また、ホールの主催事業を広く周知するため、年間を通してホールプロデューサー自身が広報活動を継続的に行った。例えば、龍谷大学国際学部での講演（2022年6月16日）や京都東山ロータリークラブでの卓話（2022年8月30日）、京都橘大学の学生に対する講義（2022年10月18日）、ウェブ批評誌 *Mercur des Arts* への寄稿（2022年6月号）などである。これらの活動を通して助成対象活動を周知すると共に、地域の文化拠点としての機能を高め、事業運営につなげていくことができるように心がけた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### <SNSでの反応>

当ホールでは、SNS アカウント (Twitter、Facebook、Instagram、YouTube) を用いて広報活動を行っている。Twitter では短文での情報発信（主にチケット発売・販売情報やコンサート案内等）、Facebook は出演者インタビューやプログラム解説、Instagram では出演者の写真やホール写真、YouTube は出演者の紹介動画等を発信している。2022 年度の 1 年間、Facebook のフォロワー数は 200 名、Twitter は 763 名、Instagram は 370 名アップした。特に Twitter では、出演者にシェアをしてもらおうと大きな反応があり、チケット販促にも繋がった。また、公演後にコンサートの感想を寄せるファンも多数おり、それらの内容からいずれの公演も高評価であったことがわかった。

### <聴衆アンケート>

コンサートごとに聴衆アンケートを実施（紙・ウェブ両方）。助成対象公演に関しては、公演事業（9 公演）のアンケート回収率が 9.5%、人材養成事業（2 公演）が 10.3%、普及啓発事業（1 公演）が 25.2%であった。回収率について決して高い数字とは言えないが、すべての公演において「満足度」（「非常によかった」「よかった」）の割合が 90%以上であり、助成対象公演の鑑賞者が深い満足度を得ていたことがわかった。

### <専門誌での批評>

公演事業の事業番号 4 について、「音楽の友 2023 年 1 月号」でレビュー欄に取り上げられた。「ピアノ五重奏曲」が・・・（中略）見事なもので、どちらかといえば渋くくらい性格のこの作品が、彼らの共感と熱意で、何と内実の豊かな熱い血潮の通った音楽になったことか。（引用）」と高評価を得ることができた。

### <テレビ放映>

公演事業の事業番号 6 について、NHK-BS「クラシック倶楽部」で取り上げられ（「クラシック倶楽部 イリーナ・メジューエワ ピアノリサイタル～ラフマニノフが愛したピアノとともに～」）、大きな反響があった。そのため、急遽地上波でも再放送されるなど、全国的に本公演について周知することができた。

### <総評>

以上の事柄を中心に、当ホールは京都のクラシック音楽の振興に努めてきた。今後も、長期的目線を持ちながら、京都のクラシック音楽の発展を目指して活動を継続していきたい。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当ホールの事業は、すべて事業企画課が企画立案・運営をしている。事業企画課は、専門知識を有するプロデューサー（事業企画課長・1名）、事業制作4名、広報担当1名、チケット担当が1名、計7名で構成されている。企画立案はプロデューサーが中心になって行い、前年度の春から夏にかけて翌年のラインアップ案について課内協議を行う。その後、そのラインアップ案が、ホールの役割や使命、ビジョンに紐づいたものかどうかを、外部有識者で構成される「舞台芸術企画運営委員会」で諮り、最終決議される。

事業を正しく効率的に運営していくために、当ホールでは「チェックシート」を取り入れている。このシートには、①収支実績、②入場者実績、③広報宣伝実績についてそれぞれ評価と課題を記載し、最後に総合評価・課題を記載する。同時に、観客アンケートを実施し、結果を集計・分析している。この「チェックシート」と「観客アンケート」の結果をプロデューサーが取りまとめ、精査するとともに、次年度の事業運営に向けて課内で協議・情報共有している。

また事業企画課のみならず、ホールの組織（経理や人事等を担う総務課、施設管理等を行う管理課）をはじめ、財団全体（ロームシアター京都、京都市文化会館5館）が一丸となって、昨年度1年かけて協議を重ね策定した「中期経営計画 2025」に沿った文化芸術活動を行っている。組織全体が持続的に発展していくことを目指すため、職員一人ひとりが中長期かつ多角的視点を持って日々の業務に取り組んでいる。